



- O13-4 薬害HIV感染被害者らには医療機関への通院による負荷はどれくらいかかっているのか
- O19-2 クスリ・ドラッグを使うことがある人と出会うハームリダクション東京のオンラインアウトリーチ事業「OKチャット」: Chemsexすることがある人向けのサービスもスタート
- P-S1-3 費用に関する認識とその関連因子: 患者報告アウトカム多施設共同研究
- P-S3-3 PrEP開始後にHIV感染が判明した10例に関する後方視的研究
- P-S4-1 東海地域におけるゲイ・バイセクシュアル男性を対象にしたHIV/STI検査行動と啓発普及方法の検討
- P-S4-3 ゲイCBOによるセクシュアルヘルス向上に関する取り組み 一 中四国地方でのクリニック検査事業一
- P-S5-1 HIV/AIDS awareness and test-taking behavior among Nepalese
- P-S5-2 来日するHIV陽性者が治療を継続するために必要なこと
- P-S5-4 Optimizing Sexual Health for All – A Qualitative Study to Identify Barriers and Facilitators to HIV and STI testing among International Migrants in Japan
- P-S8-5 薬害HIV感染被害者の安心安全な長期療養のためのソーシャルサポートネットワークの整備
～通院状況と健康関連QOLに関する検討
- P-S9-3 HIV診療の均てん化を目指した群馬県の取り組み ～非拠点病院でのART処方への拡充～
- P-S10-3 新宿区のHIV・性感染症検査事業の取組
- P-S10-8 HIV検査・相談室サークルさっぽろにおける相談を鍵とした社会的支援の分析
～北海道札幌市に一つだけある民間運営の検査相談施設の意義～
- P-S12-5 HIV陽性者を初めて受け入れた施設で対応苦慮された事例-患者さんを支える施設を拠点病院がどう支えるか、
地域支援者と拠点病院の関係性を再確認する-
- P-S13-2 HIV陽性者が抱える慢性疾患および心身の自覚症状の実態
- P-S14-1 U=Uの知識の有無が、HIV陽性者とセックスするという判断にどのような影響を与えるのか？
～MSMを対象とした全国Web調査(第2回LASH調査)から
- P-S15-3 MSMコミュニティの当事者団体と行政、医療・研究機関が一堂に会して協働する、コミュニケーションの実施体制の構築、
運営から改善の試みまで

※受賞演題は、第38回日本エイズ学会学術集会・総会のプログラム委員が、投稿された演題の抄録情報を用いて、協議の上で若手投稿者を中心に推薦し、大会長が決定した。
(ただし、アンコール演題を除く。臨床・基礎・社会の部門ごとに投稿演題数の20%以内とする。)